

地域と連携した介護予防活動に貢献

梶原の「ほほえみ会」 知事表彰



賞状を手にする真島さんとほほえみ会の皆さん

梶原の「ほほえみ会」(代表 真島悦代さん・67歳)が、地域ぐるみで介護予防活動に積極的に取り組んでいるとして、鳥取いきいき長寿知事表彰を受賞しました。

ほほえみ会は結成6年目で、平均年齢は80歳。65歳から92歳までの22人が会員です。毎月1回、近くの集会所に集まり活動しており、食生活改善推進員研修会で学んだ料理を伝達したり、折り紙や牛乳パック、ネクタイなどを使った手芸のほか、簡単な体操やレクリエーションなどを行っています。「難しいことはしない」が基本ベース。ほかにもゴミブリだんごや廃油を使った石けんづくり、室内でミニ運動会をしたり、小学生との交流勉強会や野外でベタンク大会もしました。また、毎月のカレンダーに色塗りをして認知症予防に努めています。そして、会の終わりに必ず「ほけない小唄」「われら人生60から

「大山賛歌」など6曲のテーマソングを歌っています。

代表の真島さんは「りっぱな賞をもらいびっくりしています。家族でも会話が少ない現在、顔みしりの人が集まって話しをするのは良いこと。地域内でふだんのかっこで出ることが大切です。これを機会に地域の方々のために閉じこもり予防と転倒予防、ストレス解消の役に立つよう今後も続けていきたいです」と話しておられます。

—西坪部落が防災グッズを整備—



地域の安全は自らの力で

西坪部落自主防災会議が、このほど(財)自治総合センターから宝くじの普及広報事業助成金を受けて、防災倉庫などの防災機材を整備しました。

西坪部落では「地域の安全は地域で守ろう」と、早期に自主防災組織を設立し、いろいろな防災活動を行っています。その活動の中で必要な資機材を選定し、コミュニティ助成事業(自主防災組織育成)の申請を行っていました。

このほど整備した防災機材は、火災のほか地震、風水害にも対応できるもので、災害が起きた場合には、地域の被害を最小限に抑えるため威力を発揮することでしょう。

ホールを包む歌声



合唱団「まゆ」の定期演奏会が12月7日(日)、生活想像館わくわくホールで開かれました。

「まゆ」は、「家庭からも歌声を、子どもからお年寄りまで楽しめる合唱」を合言葉に活動を続けて36年になります。29回目になる今回の定期演奏会は、懐かしのフォークソングナンバートと、結成初期にも歌い、「まゆ」の原点ともいえる、混声合唱組曲「旅」に挑戦しました。さらに交流を続けている合唱団「せせらぎ」が友情出演して一緒に「日本の歌メドレー」を合同演奏したほか、ゲストとしてソプラノ井田裕子さん、テノール加藤耕一さんを招いて得意の独唱や2重唱が披露されました。

毎年この演奏を楽しみに集まった聴衆は、多様な構成と美しい歌声に魅了されました。